

目的：家庭のリスクが複雑化・増大化している。これは今日の家庭経営を取り巻く外的社会環境の変化とそれに伴う家庭の機能・構造の変化が、経営外部的・内部的ハザードとなりリスクの発生に大きな影響を及ぼしているためである。家庭の安定と成長を脅かす要因をリスクとして捉え、家庭経営過程にリスクマネジメントを導入することは不可欠であり、本研究では家庭経営におけるリスクマネジメントの理論と方法の体系化を目的としている。

方法：リスクの管理手法概念としてリスクマネジメント理論を援用する。システム・アプローチにより、第1報にてリスクマネジメントの意義を、第2報にて従来のリスクマネジメント研究の可能性と問題点をそれぞれ指摘し、第3報においてファミリーシステム維持存続のためのリスクマネジメントのあり方およびリスク定義リスクマネジメント定義を明確化した。本報では以上を踏まえたうえでの、リスクマネジメントの進め方を考察する。

結果：経営上のリスクが生活の総体に関わる以上その管理はトータルに体系化されたものである必要があり、リスクマネジメントの過程では、全過程管理において決定された経営目標を遂行する際に各個別管理過程に生じるすべてのリスクを予測・発見し対処することになる。家庭のリスクマネージャーはその機能に関わる主体として捉えられ、組織的・教育的・実務的各能力を有することがその資質として求められる。リスクマネジメントプロセスは、①経営目標の認識、②リスクの確認、③リスクの評価、④リスク処理手段の選択、⑤リスク処理の実行、⑥リスクマネジメントの再評価の6段階からなる。これらはマネジメントサイクルを形成するものであり、システム全体の指揮・統制のもとに行われる。